

第1学年

「いろいろなきせつのあそびをたのしもう（夏）ー泥遊びー」

高浜市立港小学校 深谷 和彦

1 単元について

(1) 単元設定の理由

本学級の子どもは、男子18名、女子15名で、5月にはあさがおの種まきを行い、一人一鉢であさがおを育て始めた。毎朝水やりを行い、芽が出たときには「5つ出てる」「私のは6つだったよ」などのように、あさがおの生長の喜びを感じながらお世話を続けた。一人の子の花が咲くと、そのことを自分のことのように報告し、自分も早く咲いてほしいという思いをもちながらお世話をし、花を咲かせることができた。しかし、生長途中で行った観察では、葉の形や大きさに着目して見るという視点を与えていたが、観察後に葉の形を尋ねると「最初の葉っぱと同じだった」とほとんどの子が答え、子葉と本葉の違いに気付くことができない様子が見られた。逆に教師と一緒に確認すると、そこで気付くことができ、自分だけでは細かなところまで見たり比べたりすることが難しい実態が浮かんできた。また、他教科の学習では、文章を読んだり計算したりして答えを発表することはできても、「なぜ・どうして」を考える内容になると下を向いてしまう様子も見られ、考えたことを言語化することに苦手意識があると感じられる。そこで、生活科の学習では、体験したことを基にして、自分の気付きや考えたことを言語化できたらと考えた。

本単元は、小学校学習指導要領の内容(5)(6)(8)(9)を受けて構成している。季節を感じながら自然に触れて遊ぶことを楽しんだり、身近な自然を使った遊びを工夫したり、役割をもち活動したりすることを中心に設定した。主活動は、「どろごんボール」と呼ばれる泥団子作りが中心となる。幼稚園・保育園の砂場遊びで経験してきている子どもが多いと考える。そのため、子どもも主体的に活動しやすく、自ずと進んで対象に関わることができやすいと考える。しかし、土に水をかけて、泥を丸めてからさらに土をかけて作るという手順は知っていても、それを壊れないようにしたり、光らせたりする方法は知らない子どもが多いと考える。そのため、自分の思いの実現に向けて追究する中で、試行錯誤しながら新たな気付きをもち、友達と自分を比べるなどして学習する機会も多くなる。そのような活動を通して、他者との比較を自ら行いやすく、考えながら自分の思いの実現に向けて主体的に取り組むことができる単元であると考え、本主題を設定した。

(2) めざす子どもの姿

本研究では、めざす子どもの姿を、以下の通り設定した。

- ①自分から主体的・意欲的に学ぶことができる子ども
- ②友達との関わりから気付きや発見をし、学習に生かすことができる子ども
- ③学んだことを生かし、他へと考えを広げることができる子ども

(3) 仮説と手立て

本研究では、めざす子ども像の実現に向けて、以下の通り仮説と手だてを講じて検証していくこととした。

【仮説1】子どもの興味・関心が向くように、「～したい」という思いを大切に

して単元を構想することで、自ら意欲的に学びに向かうことができるであろう。

(手立て1) 丸めた粘土を用いた転がし大会の実施

(手立て2) 子どもの思いを引き出す道具の準備と場の設定

(手立て3) 学級全員が「すてきなだろごんボール」を作成するという課題の設定

(手立て4) 学習内容を把握できるカードの活用

【仮説2】 自分の思いの実現に向けて、活動する時間を十分に設定したり、友達と関わりながら活動したり話し合ったりする場を設定することで、新たな気付きや考えをもつことができるであろう。

(手立て5) 「すてきなだろごんボール」に対する、自分の思いをもつ時間の設定と、十分な活動時間の確保

(手立て6) だろごんボールの作り方の全体共有を図る時間の設定

【仮説3】 学んだことを生かして活動する場を設定することで、自分の考えを他へと広げることができるであろう。

(手立て7) 2年生との交流の時間の設定

(4) 抽出児について

本研究の成果について、A児の変容を追うことで、手だての有効性を検証していく。検証していくのに際し、記録については、タブレット端末のカメラやビデオ、ボイスレコーダー機能を用いた。

(児童の実態)

学習に対しては、真面目に取り組むことができる。しゃぼん玉遊びや水遊びでは、いろいろな道具を持参したり、道具を工夫したりして遊ぶことができ、自分なりの考えをもつことはできた。しかし、それを周りの友達に広げたり、一緒に活動したりする姿は少なかった。

(本単元にかける願い・期待する姿)

周りの友達と関わりながら、意欲的に取り組んでほしい。また、友達との関わりにより、自分の考えを広げたり、自分の考えを整理したりする姿を期待したい。

(5) 単元構想図(8時間完了)(3ページ参照)

2 実践経過と考察

(1) 粘土を丸めた転がし大会(手立て1)

単元の導入では、まず図画工作科の時間に、「ねんどとなかよし」にて転がし大会を行った。子どもたちには、手の平で丸められるくらいの大きさの粘土を用意させ、粘土板を使わずに丸めるように指示した。今まで粘土を丸めるときには、粘土板を用いて丸めていた子が多く苦労はしていたが、手の平を使って丸めていた。A児は、初め粘土を何回かこねて柔らかくしてから、手の平を使って丸い形になっているか確認しながら丸めていた。その後、傾きをつけた雨樋の上で丸めた粘土を転がし、どこまで転がったかを分かるようにしたものをを用いて転がし大会を行った(写真1)。子どもたちは、どこまで転がるかを楽しみにし、自分の番が来るのを楽しみ



資料1 単元構想図

子どもの思考の流れと学習活動	教師の支援
<p>いろいろな季節で、遊びをするのが楽しみな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 丸めた粘土や泥団子を転がして遊ぶことができるように、雨樋を用いて転がすためのレールを作る。 丸い泥団子がよいという価値を確かめる方法を考えやすくするために、丸めた粘土を転がす活動を設定する。 砂場を使いやすいよう、耕しておく。 水を用いた砂遊びができるように、砂場の近くに水の入ったバケツを用意しておく。 泥団子作りへと移行しやすくするため、砂遊びの時間を十分に設定する。 次時の活動への意欲をもたせることができるように、砂場の中に指令が入ったピンを埋めておく。 今までは個人で満足すればよかったのが、今回は全員が達成することが大事だという思いをもつことができるように、34個という個数の意味を確認する。 「すてきな」という部分への自分の思いがもてるように、作っている途中で価値付けを行う。 課題を把握し、その解決に向けて取り組むことができるように、泥遊び前に、「あそびたいすてききらめいじんへのみち」カードを配る。 自分で泥を作ることは、アサガオの水やり用のペットボトルを持たせる。 清動したことから気付いたことを共有できるように、授業開始時に発表をするようにする。 自分で作った泥団子を大切にできるように、一人一カップ大きなプラスチックカップとビニール袋を用意する。また、保管できるように、器を用意する。 雨天時でも作りたいたいという思いに応えることができるように、砂場や運動場などの敷方所から採った砂を用意する。 自分のがんばりを認め、次の秋の遊びへの意欲を高めることができるように、「きらきらめいじん」メダルを配る。 2年生の子に教えたいという気持ちをもつことができるように、2年生が1年時に行っていないことや、春に1年生と仲良くなる会を開いてくれたことを伝える。
<p>図画工作科「ねんどとなかよし」の学習で、丸めた粘土を用いて、転がし大会を行う。(時間外)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 丸いかたちにすると、遠くまで転がすことができたよ。 丸めるのには、ころころと粘土板の上を転がすといいよ。 丸めるときに、指を使って伸ばすといいよ。でこぼこが減るからきれいになるよ。 	
<p>図画工作科「さらさらどろどろいいきもち」の学習で、砂遊びを行う。(時間外)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 土の中からピンが出てきたよ。 「すてきなどろごんボールを34個つくろう」と書いてあるよ。すてきなどろごんボールを作ると、「きらきらめいじん」になれるんだって。「きらきらめいじん」目指してすてきなどろごんボールを作ってみたいな。 	
<p>すてきなどろごんボールとはどんなボールか考える。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 固いどろごんボールを作りたいな。 落としても割れないどろごんボールを作ろう。 つるつるなどろごんボールにしたいな。 	
<p>すてきなどろごんボール作りを行う。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 丸い形にできたよ。すてきな。 うまく丸まらないな。何でだろう。 水を少なくして丸めてみようかな。 運動場の砂を使うのがよいか。 優しく触ってあげて、形を整えていこう。 	
<p>すてきなどろごんボールにするための気づきを共有し、その気づきを基に、作り直す。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 濡っていない砂をかけると、きれいに固まったよ。 砂をかけてから形を整えると、きれいになるよ。 さらさらした砂が滑り台の近くにあるから、それをかけるといいよ。 優しく触ってあげることで、丸まるとともに、きらきらなどろごんボールになってきたよ。 みんなが教えてくれたおかげで、形が崩れないすてきなどろごんボールができたよ。 全員ができて、学級での丸も増えたから嬉しいね。 	
<p>「きらきらめいじん」メダルを受け取る。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> やったあ。これで名人になれたぞ。 友達のおかげで名人になれたから嬉しいな。 秋の遊びも、きらきら名人になりたいな。 	
<p>学習したことを生かして、2年生の子に教えてあげる。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 最初は水を多めにし、ぎゅってしてあげるといいんだよ。 さらさらの砂をかけてあげるといいよ。 	
<p>泥の感触が気持ちよかったな。砂も、さらさらしているのやささらしているものがあつて不思議だったよ。すてきなどろごんボールが作れたし、きらきら名人にもなつて、メダルももらえてうれしかったな。2年生と一緒に作って、うれしがってくれてよかったよ。</p>	

に待っていた。遠くまで転がったときには、「すごい」という声が聞かれた。また、転がし大会を行う中で、遠くまで転がしたいという思いが強くなり、列に並んでいる間には次の自分の転がす番になるまで、手の平を使って丸めたり、親指を使って粘土の裏面を伸ばしたりする様子が見られた。A児も、並びながら自分の粘土を丸め、他の子の転がした粘土がどこまで転がったかを確認し、転がった際には「すごいね」と声をかけていた。その後、一度教室に戻り、丸め方を全体で共有した。そこで、粘土を伸ばし、ひびを直している子の様子をタブレット端末を用いて確認した後、再度丸める時間を設定した。A児は、説明を聞いたことを生かして、ひびや割れがほぼ見られないきれいに丸めた粘土を作ることができた。丸める時間の設定後、転がす時間を設定すると、きれいに丸まってきているにも関わらず、「まだ終わっていないよ」「もっと丸めたい」など、きれいな形にしたいという思いが感じられた。再度転がした後、授業の振り返りを行うと、A児は「手でぼこぼこしてるところをなでる」「手で割れてるところを親指でこすって直した」と書くことができ、考えをまとめるだけでなく、泥団子作りでも生かせる技能も習得することができた。

(2) 砂場での砂遊び (手立て2・3)

次に、どろごんボール作りへと移ることをねらって、図画工作科の時間に、「さらさらどろどろいいきもち」の学習を行った。砂場の周りには、水が入っている大きいバケツ、小さいバケツ、雨樋、スコップやカップなど、様々な道具を用意した。また、砂場の真ん中の辺りには、手紙が入った瓶を入れておいた。子どもたちは、砂場に着き、様々な道具を目にして、「早く作りたい」と口々に言い、学習への意欲を高めていた。A児は、初め保育園が同じであった子と一緒に、カップに砂を詰めて遊んでいたが、雨樋からバケツに入れた水を流して遊んでいるのを見て、泥団子を作り転がして遊んだ。さらに、雨樋に水を流して遊んでいた子が、雨樋の先に穴を掘って、水を貯め始めたのを見て、穴の先に道を作り始めた(写真2)。作っている際には、先に作っていた子が「そっちじゃないよ」などと、A児の行おうとしたことに対して指摘することはあったが、一緒に作ることができた。また、遊んでいる際には、「泥嫌い」



写真2 友達と一緒に活動するA児

資料2 瓶の中の手紙の内容

やあ、このてがみを ひろった きみたち！
つちあそびでの きらきらめいじんに なるには、
「**すてきなどろごんボール**」を**34こ**
つくるんだ！ そうすると、
きらきらめいじんに なるぞ！
さあ、がんばって すてきな
すてきなどろごんボールを つくるのだ！！



と言っていたA児から、「手で掘ろう」という言葉が聞かれ、苦手であっても意欲的に活動できた。その結果、砂場の端と端がつながり、一本の道になるくらいまでダイナミックに遊びを展開することができた。その後、一度全員を集め、砂場から出てきた、手紙が入っている瓶を提示した。瓶が開くと、子どもたちは中身の手紙を確認したくなり、自然と立ち上がった。そこで、瓶の中に入っていた手紙を一緒に声に出して読んだ(資料2)。声に出して読んでいるときには、34個という個数への驚きや、34個作ると「きらきら名人」になれることへのうれしさを示した。読み終えた後に、34個作るということは、全員が一人一個作る必要があることを確認して、試しに一度10分ほどで作ってみることとした。「できた」「見て」と言って多くの子どもが持ってきたが、その際に、「大きくていいね」「固くて壊れなさそうだね」など、肯定的な言葉をかけ、子どもたちのどろごんボールに価値付けを行った。A児は、手の平に乗せられるくらいの大きさのどろごんボールを作り、「見て」「でっかい」と言って見せに来た。大きさについては、褒めるとうれしそうにしていた。しかし、べたべたであったため、「触ると手についちゃうね。どうしたらよいかね」と問いかけ、次の活動へとつなげていくことができるようにした。翌朝、他学級が使用できるように砂場を耕していると、「どろごんボール作ってもいい」と聞いてきたA児の姿が見られ、作りたいという思いが高まっていることが感じられた。

(3) すてきなどろごんボールについて考える (手立て5)

一度簡単に試してみた後に、すてきなどろごんボールとはどんなものか考えた。子どもたちからは、「固い」「ひびがない」「草がつかない」「頑丈」「投げても割れない」「崩れない」など状態に関する意見、「きれいな丸」「大きな丸」など形に関する意見、「つるつる」「ぴかぴか」「さらさら」など感触や見た目に関する意見が出た(写真3)。その中でも、特に「投げても割れない」「頑丈」「踏んでも割れない」など、固さに関する意見が非常に多かった。また、「ひびがない」という意見に対して、「粘土と同じ」と「ねんどとなかよし」の学習が生きたつぶやきをした子もいた。A児は、「手に泥がつかない」「つるつるな」「崩

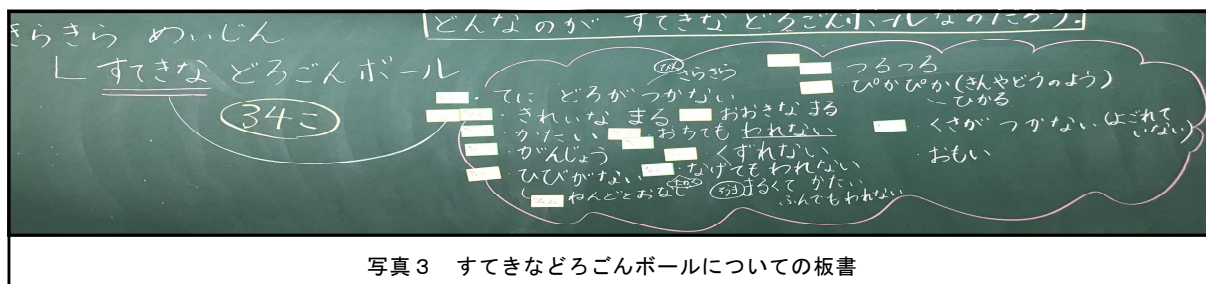
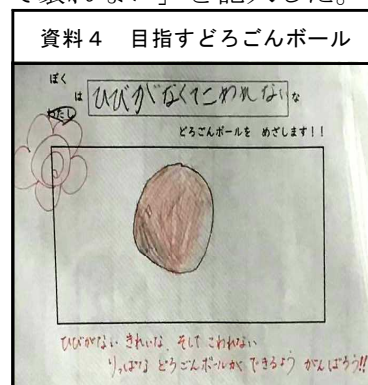
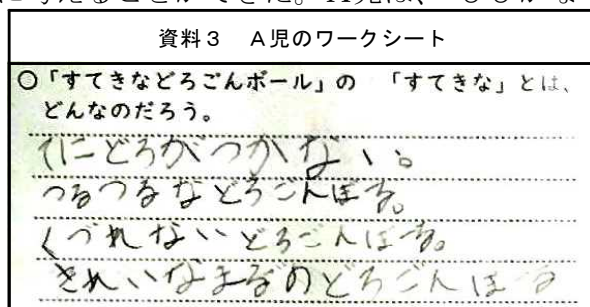


写真3 すてきなだろごんボールについての板書

れない」「きれいな丸」と記入し、一度試してみた経験から「すてき」について考えることができた（資料3）。その後、自分がどんなだろごんボールを目指すのかを考えると、「固くて投げても壊れない」「かちかち」「つるつるのびかぴか」「ぴかぴか光った金や銅のよう」など、思い思いに考えることができた。A児は、「ひびがなくて壊れない」と記入した。自分で考えたとき



にはなかった「ひびがない」「壊れない」という友達の意見を基にして、自分の考えをもつことができた（資料4）。

（4）だろごんボール作り（手立て5）

自分の目指すだろごんボールを考えたところで、外へと出てだろごんボール作りを始めた。試しに作ったときのだろごんボールを持っていた子もいたため、「前作ったのを直していくでもいいよ」と声をかけると、A児は「え、いやだ。一から作りたい」と言って、持っていたものを壊し、再度作り始めた。その後、砂場の少し湿った土をかけていたため、「茶色い色の砂をかけるといいの」と尋ねると、近くで一緒に作っていた子が「白いのがだいたい…」と発言したのに続いてA児が「濡れていない砂をかける」と答えた。さらに、かけている砂について「きな粉みたい」と発言し、触った感触と色を自分の生活と結びつけた発言が聞かれた。そして、少し湿った砂をかけていたが、白い乾いた砂を求めて場所を移動していた。そして、乾いた砂をかけ続け、A児はひびがないだろごんボールを作った（写真4）。



写真4 A児のだろごんボール

しかし、表面は粗く、触るとぼろぼろ落ちてくる状態であった。

次時も同じように、ペットボトルと作りかけのだろごんボールを持って外に出ると、A児も含め、全員が砂場へと向かい、水を貯めて砂を混ぜながら作り始めた。しばらくして、水道へ水を汲みに行った子が、水道近くで水をこぼしたのをきっかけに、数人が水道付近の土を使い作り始めた。その様子を全体に伝えると、「他のところで作りたい」と言って、数人が砂場近くの土を用いて作り出した。A児は、その様子を見ていて、はじめは躊躇して砂場にいたが、友達と砂場の外へと出て、足で土を掘り、そこに水を入れて作り始めた。水を入れ、土を触った際には、「めっちゃどろどろしている」「べちゃべちゃ、ねちゃねちゃしている」「粘土みたい」と発言し、土の感触について「きもい」と発言はしたが、土の感触か

ら砂場以外の土がよいことを判断した。また、かけた水が多く、上手く丸められなかったが、奥の方から土を掘り出し、自分で困っていることに対して自分で考えて解消することができた。また、授業終了時刻になり、終わろうとすると、「いやだ」「まだ作る」と言う声が A 児や多くの子から聞かれた。そこで、休み時間も作ってよいこととした。すると、A 児は、休み時間も続けて作り続け、それ以降の休み時間も作るようになった。

次時は、前時に砂場以外で作り始めた子が出たこと、さらに休み時間も作ってよいこととした結果、半数以上の子が砂場以外の場所で作り始めた。A 児は、人が集まっている水道付近で作り始めた。A 児は、砂をかけたり、地面で転がしたりして作っていたが、一緒に作っていた子が乾いた砂をたくさんかけて山にしているのを見ると、同じように作る様子が見られた。また、別日の休み時間には、友達から「体育館の犬走りにさら粉があるよ」と聞き、そこで作る様子や、体育館奥までさらさらしている土を探しに出かけるなど、行動範囲が広がり、どろごんボール作りに夢中になっていた。その結果、近くの友達と関わり楽しく作りながら、表面がつるつるしているどろごんボールへと変えていくことができた (写真5)。



写真5 A児のどろごんボール

(5) 作り方の気付きの共有 (手立て6)

気付きを共有する前に、目指しているどろごんボールと、作り方を整理する時間を設定した。A 児は、目指しているどろごんボールを「固くてきれいな」と記入した (資料5)。初め考えたものと異なり、友達と一緒に作っている過程で考えに変化が見られた。また、作り方についても細かく書いており、経験したことを基に自分の考えを整理できていることも読み取れる。

学級全体で作り方について共有を図ると、多くの意見が出た (写真6)。土について「砂場の近くの土を使うと、落としても割れない」「おにぎりみたいに握る」など具体的な発言が聞かれた。また、実際に土を落としているときの映像や、丸めたティッシュを用いて作り方を説明する子の話を聞いて「俺もやってみようかな」というようなつぶやきが聞かれた。さらに、つるつるになっている子が「さら粉をかけて、ちょっとだけ払う」と話すと、「えーっ」と非常に驚く様子が見られ、やってみようという思いを高めた。A 児は、友達の意見に対して、頷いたり首を横に振ったりして反応し、ど

資料5 A児のワークシート

<p>○どんな どろごんボールを 目指しているか かきましよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">かたくてきれいな</div> <p style="text-align: right; font-size: small;">どろごんボール</p>	<p>②かため</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: x-small;"> <tr> <td style="width: 10%;">① 土</td> <td style="width: 10%;">① 土</td> <td style="width: 80%;">しつこくおにぎり</td> </tr> <tr> <td>② 砂</td> <td>② 砂</td> <td>しつこくおにぎり</td> </tr> <tr> <td>③ 水</td> <td>③ 水</td> <td>しつこくおにぎり</td> </tr> <tr> <td>④ さら粉</td> <td>④ さら粉</td> <td>しつこくおにぎり</td> </tr> <tr> <td>⑤ 水</td> <td>⑤ 水</td> <td>しつこくおにぎり</td> </tr> <tr> <td>⑥ さら粉</td> <td>⑥ さら粉</td> <td>しつこくおにぎり</td> </tr> <tr> <td>⑦ 水</td> <td>⑦ 水</td> <td>しつこくおにぎり</td> </tr> <tr> <td>⑧ さら粉</td> <td>⑧ さら粉</td> <td>しつこくおにぎり</td> </tr> <tr> <td>⑨ 水</td> <td>⑨ 水</td> <td>しつこくおにぎり</td> </tr> <tr> <td>⑩ さら粉</td> <td>⑩ さら粉</td> <td>しつこくおにぎり</td> </tr> </table>	① 土	① 土	しつこくおにぎり	② 砂	② 砂	しつこくおにぎり	③ 水	③ 水	しつこくおにぎり	④ さら粉	④ さら粉	しつこくおにぎり	⑤ 水	⑤ 水	しつこくおにぎり	⑥ さら粉	⑥ さら粉	しつこくおにぎり	⑦ 水	⑦ 水	しつこくおにぎり	⑧ さら粉	⑧ さら粉	しつこくおにぎり	⑨ 水	⑨ 水	しつこくおにぎり	⑩ さら粉	⑩ さら粉	しつこくおにぎり			
① 土	① 土	しつこくおにぎり																																
② 砂	② 砂	しつこくおにぎり																																
③ 水	③ 水	しつこくおにぎり																																
④ さら粉	④ さら粉	しつこくおにぎり																																
⑤ 水	⑤ 水	しつこくおにぎり																																
⑥ さら粉	⑥ さら粉	しつこくおにぎり																																
⑦ 水	⑦ 水	しつこくおにぎり																																
⑧ さら粉	⑧ さら粉	しつこくおにぎり																																
⑨ 水	⑨ 水	しつこくおにぎり																																
⑩ さら粉	⑩ さら粉	しつこくおにぎり																																
<p>○どろごんボールをつくるには どうしたら よいだろうか どうやって つくったか</p> <p>つくりかたを <u>くわしく</u> おもいだそう。また、<u>くふうした</u> ことも かきましよう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: x-small;"> <tr> <th style="width: 10%;">じゆんばん</th> <th style="width: 40%;">どこの つちを つかたか</th> <th style="width: 50%;">どうやって つくったか (くふう・こつ・おもしろい など)</th> </tr> <tr> <td>① 作る</td> <td>① 土</td> <td>つちに <u>おにぎり</u></td> </tr> <tr> <td>② 土</td> <td>② 砂</td> <td><u>かたく</u> <u>きれいな</u></td> </tr> <tr> <td>③ 水</td> <td>③ 水</td> <td><u>けい</u> <u>おにぎり</u></td> </tr> <tr> <td>④ さら粉</td> <td>④ さら粉</td> <td><u>けい</u> <u>おにぎり</u></td> </tr> <tr> <td>⑤ 水</td> <td>⑤ 水</td> <td><u>けい</u> <u>おにぎり</u></td> </tr> <tr> <td>⑥ さら粉</td> <td>⑥ さら粉</td> <td><u>けい</u> <u>おにぎり</u></td> </tr> <tr> <td>⑦ 水</td> <td>⑦ 水</td> <td><u>けい</u> <u>おにぎり</u></td> </tr> <tr> <td>⑧ さら粉</td> <td>⑧ さら粉</td> <td><u>けい</u> <u>おにぎり</u></td> </tr> <tr> <td>⑨ 水</td> <td>⑨ 水</td> <td><u>けい</u> <u>おにぎり</u></td> </tr> <tr> <td>⑩ さら粉</td> <td>⑩ さら粉</td> <td><u>けい</u> <u>おにぎり</u></td> </tr> </table>	じゆんばん	どこの つちを つかたか	どうやって つくったか (くふう・こつ・おもしろい など)	① 作る	① 土	つちに <u>おにぎり</u>	② 土	② 砂	<u>かたく</u> <u>きれいな</u>	③ 水	③ 水	<u>けい</u> <u>おにぎり</u>	④ さら粉	④ さら粉	<u>けい</u> <u>おにぎり</u>	⑤ 水	⑤ 水	<u>けい</u> <u>おにぎり</u>	⑥ さら粉	⑥ さら粉	<u>けい</u> <u>おにぎり</u>	⑦ 水	⑦ 水	<u>けい</u> <u>おにぎり</u>	⑧ さら粉	⑧ さら粉	<u>けい</u> <u>おにぎり</u>	⑨ 水	⑨ 水	<u>けい</u> <u>おにぎり</u>	⑩ さら粉	⑩ さら粉	<u>けい</u> <u>おにぎり</u>	<p>いろいろなきせつのおそびをたのしもう</p> <p style="text-align: center;">みんながやるときは どろごんボールには、どうするとよいだろう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>■ 作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 土をふる。 ■ 水をふる。 ■ さら粉をふる。 ■ 水をふる。 ■ さら粉をふる。 ■ 水をふる。 ■ さら粉をふる。 </div> <div style="width: 45%;"> <p>■ かため</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ さら粉をかける ■ 水をかける ■ さら粉をかける ■ 水をかける ■ さら粉をかける ■ 水をかける ■ さら粉をかける </div> </div>
じゆんばん	どこの つちを つかたか	どうやって つくったか (くふう・こつ・おもしろい など)																																
① 作る	① 土	つちに <u>おにぎり</u>																																
② 土	② 砂	<u>かたく</u> <u>きれいな</u>																																
③ 水	③ 水	<u>けい</u> <u>おにぎり</u>																																
④ さら粉	④ さら粉	<u>けい</u> <u>おにぎり</u>																																
⑤ 水	⑤ 水	<u>けい</u> <u>おにぎり</u>																																
⑥ さら粉	⑥ さら粉	<u>けい</u> <u>おにぎり</u>																																
⑦ 水	⑦ 水	<u>けい</u> <u>おにぎり</u>																																
⑧ さら粉	⑧ さら粉	<u>けい</u> <u>おにぎり</u>																																
⑨ 水	⑨ 水	<u>けい</u> <u>おにぎり</u>																																
⑩ さら粉	⑩ さら粉	<u>けい</u> <u>おにぎり</u>																																

写真6 作り方の共有時の板書

この場所の土を使うとよいかについて、「水道の近く」と経験を基に考えたことを発表することができた。そして、別室に移動して試す時間を設定すると、A 児を含め「やったあ」と喜んだ。試してみると、「犬走りが一番いい」と気付く子や、意見を基にやってみると上手くいって喜ぶ子が見られた。A 児も、なでるようにして土を払うという、自分にはなかった意見を試す姿が見られた。そして、「体育館入り口で、光るどろごんボールを作りたい」という思いをもつことができた。その後、作成する時間を設定すると、A 児は、体育館の犬走りや体育館裏の土をかけ、それを優しく払うという作り方でどろごんボールを作った。完成したどろごんボールは、乾燥して白くなったが、表面はでこぼこが少なくつるつる光っていた（写真7）。



写真7 完成したどろごんボール

（6）きらきら名人メダルと2年生との交流（手立て7）

全員が作り終えた後に、がんばった証として「きらきら名人メダル」を渡した。メダルが渡されると、首にかけて喜ぶ姿が見られた。A 児も、もらうと首にかけて喜ぶとともに、しまうときには大事そうにひもを丸めてしまっていた。

名人メダルを渡した後、2年生はどろごんボール作りをしていないこと、2年生が「みんながどろごんボールを作っているのを見て、僕たちもやりたいな。作りたいな」と話していたことを伝えた。また、入学当初に遊んでもらったことや遠足、スポーツデーなどで一緒にやってもらっていることを確認すると、お世話になっていることを理解した様子であった。すると、A 児が「2年生と一緒に作ればいい」と発言した。その発言をきっかけに、「一緒に作りたい」「教えてあげる」「やりたい」という声が高まり、2年生と一緒に作り教えたという意欲を高めた。そこで、「教えてあげて」と伝えると、「いえーい」と喜ぶ様子が見られた。その後、一緒に作る時に、どんなことを教えたらよいか、2年生が作れるようになることが大事なことを確認した。

2年生と1年生で計8人のグループを作り、外へと出た。外へ出ると、ペットボトルに水を入れて、水をかけて作り始めた。A 児は、外へ出ると、砂場付近の粘土質の土のあたりに水をかけて、泥を作り始めた。そして、「まず砂を取る」と言ってその泥を取り、丸め始めた。その様子を見ていた2年生も、一緒に泥へと手を伸ばし、作り始めた。その後、「乾いた砂をかける」と言って見本を示すことができた。その後、体育館犬走りや体育館裏に移動して、途中自分のどろごんボール作りに夢中になってしまうことはあったが、「教えてあげてね」と一言伝えると、砂をかけて優しくなでるとよいことを教えたり、グループの子と一緒に2年生のために砂を集めたりする姿が見られた。その結果、一緒に作っていた2年生は、短時間でつるつるなどろごんボールを作り上げることができた。活動後に、2年生の担任から活動後の様子の報告があり、そこには2年生が大喜びであったことが記されていた。

その後、振り返りを行った。A 児は、自身が固いどろごんボールを作れた喜びや一緒に友達と作る楽しさ、2年生に教えたことで2年生が作ることができた喜び、さらには、みんながすてきなどろごんボールになるように友達に教えることができたことを書いていた。A 児の記述から、全員で取り組むことを意識して活動できたことが分かる（資料6）。

資料6 単元後のA児の振り返り
かんたんだろごんボールができてうれしかった。 2年生に教えたからきれいだろごん ボールができておしゃべりも楽し ちになった。おしゃべりが楽しくなった。 さらに話をいっしょに見つけて2年生 に教えた。おしゃべりも楽しかった。おしゃべり ができる。おしゃべりができるとおしゃべりも楽しくなる ようにおしゃべりも楽しくなる。

そして、その活動により、自分自身が成長したことに気付くことができた。

3 成果と課題

(1) 成果

(仮説1について)

- 子どもの興味・関心がわくような教材教具や道具を用意することで、意欲や発想を広げることができた。また、粘土を丸めた経験を泥団子作りへと生かすことができた。
- 時と場に応じて、活動範囲を広げていくことで、自分の思いの実現のために、意欲的に取り組むことができた。
- 全員が作らないといけないという課題を設定することで、最後まで意欲的に取り組むことができた。また、単元後には、全員が作るという目標達成のために、自分が何をしたかについて振り返ることができた。
- 学習内容を把握できるカード（手立て4）を用いたことで、意欲的に取り組むことができた。さらに、このカードにより、達成感を感じることができ、振り返りの記述へと生かすことができた。A児は、資料7のカードのように、一つずつたどりながら課題解決を図ることができた。



(仮説2について)

- 自分の思いの実現のために、十分な活動時間を確保することにより、意欲的に取り組むことができた。また、活動の中で気付いたことを友達と教え合ったり、友達の活動の様子を見て、新たな方法に気付いたりすることができた。よいと思ったことをすぐに取り入れ、友達と一緒に作ることのよさを感じ、自分の新たな考えをもつこともできた。
- 作り方を共有する時間を設定することで、今までにはなかった新しい考えに気付くことができた。そして、その方法を試す場を設定することで、新たな価値を生み出すことができた。

(仮説3について)

- 2年生という対象を決めて、学んだことを他へと広げる場を設定することによって、自分の考えを広げることができた。

(2) 課題

- 作り方を共有するときに、「どろどろ」「べたべた」「びちゃびちゃ」など、子どもによって表現が多様なため、具体物や写真、ICT 機器などを用いて、具体的に理解できるようにする必要がある。
- 自分の考えに自信をもたせるための手だてを考えたり、どうしたら積極的に話したくなるかを、子どもの実態を見て共有する焦点化したりして、実践していく必要がある。

(3) 研究主題に向けて

子どもの「～したい」という思いを大切に単元を構想することで、最後まで意欲的に学び続けることができた。また、自分の思いの実現のために、友達と話したり意見を聞いたりする中で、今までにはなかった新たな気づきを生むことができた。このような実践を重ねていくことで、子どもの気づきの質を高め、深い学びへとつなげていくことができると考える。